

6月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

2回目ジベレリン処理

2回目のジベレリン処理は1回目の2週間後に行う。種無し栽培では、細胞分裂を促すホルモンが種子から発生しないため、人為的に植物成長調整剤をつけて、果実を肥大させている。

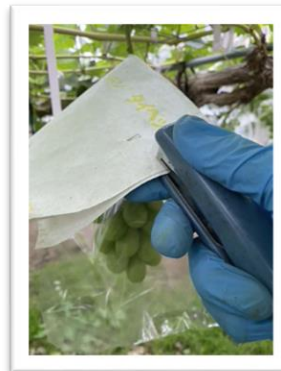
らくらくカップというジベレリン処理専用の道具があり、液が房全体にまんべんなく付き、垂れた液はカップ内に戻り再び噴射口から出されるので、液が無駄にならない構造になっている。薬剤の費用が年々高騰しているので、このような低価格でコスト削減にもなる機械は積極的に導入していきたいと感じた。



笠かけ

日焼け防止に笠をかけた。ぶどうは強い日差しに当たると写真右のように日焼けを起こしてしまう。

また笠をかけることで、鳥や獣からの食害も抑えることができる。



活動を行った感想など

房がぶどうらしい形になってきて、収穫が近づいていることを感じながら毎日楽しく作業している。また、すでに鳥や獣にかなりの量のぶどうを食べられてしまっているので、電柵や罟の設置など獣対策を考えなければいけない。

今後の目標など

ある地域で倉庫付きの住まいを借りられそうなので、その近くで農地を探している。貸してもらえそうな畑もあったが、住まいから離れていたり、設備が十分でなかったり、小規模だったりして条件が合わなかった。

農地が決まるまで先は長くなりそう。探す範囲を広げたり、自分で新設することも視野に入れて考えていこうと思う。

